

真宗高田派専修寺名古屋別院 山門・塀

(しんしゅうたかだはせんじゅじなごやべついん さんもん・へい)



☐ 認 定 番 号	第103号	☐ 認定年月日	令和5年8月29日
☐ 所 在 地	西区那古野一丁目20-25		
☐ 建 築 年	明治29年		
☐ 構造・階数	木造		
☐ 概 要	那古野地区で「御本坊」と尊称され、地域に親しまれてきた、真宗高田派専修寺名古屋別院の山門・塀。 両袖壁付きの薬医門で、虹梁に繊細な彫刻を持つとともに、欄間には市内でも最大級とされる龍の彫刻が施されている。 同別院は正保4年（1647）に臨江山信行院として創建され、明暦3年（1657）に皆戸町（現在の中区丸の内）から那古野地区へ移転。享保9年（1724）の大火により焼失するも、元文4年（1739）に高田山高田本坊と改め、輪番制を復活させた。 その後、明治期に本堂はじめ山門、鐘楼堂、庫裡などの建造物が再建され、高田派の一大拠点となるが、昭和20年（1945）の戦災で再度焼失。山門と鐘楼堂のみが残り、現在は四間道町並み保存地区周辺界隈の景観の一角となっている。		